

四谷の

千枚田だより



第 34 号

いつの世も変わらぬ強さ千枚田

市内 大藪時子

老鷲や沢水走る千枚田

市内 宇野美智子

四谷の千枚田から

みんなで灯ぼさつ千枚田

お助け隊は、またまた**ド派手**な催しを難なくこなしてしまった。

昨年、この地で行われたサミットを成功させようと連谷地区の若い衆が「サミットお助け隊」を結成、サミットの裏方(本当のことを言う**と主役**だった)としてサミット成功に導いた。

その、お助け隊が主催で田植えもほぼ終わった六月三日、夜七時から**《四谷の千枚田のお田植感謝祭!》**と銘打って地区住民に呼びかけ、2006年に因んで六百本のローソクを千枚田の農道(景観道)に灯ぼし、幽玄な世界を醸し出した。

今年は雨が多く、代かきも楽にできたが、当日も雨の予想・・・「雨が降ったら、どうするだん」と、お助け隊のリーダーに聞いたら、「雨え



〜!? そんなもん考えておらん、いらんこと考えていると何んにもできん」と心地よい返事。そうだ、サミットの時も「雨」は計画の中になかったんだ、それで天気にも恵まれたんだ。信念というものは強いものだ、天候まで左右してしまうんだなあとつくづく納得。

なにはともあれ、青田の石垣に挟まれ、登り曲がる農道の両脇、3メートル間隔に灯ぼされたローソクの灯りは、さながら天まで届く幽玄な世界を演出した趣に、地域住民はこの地に棚田を造った先祖の偉大

さ、辛苦を偲び、地域の大きな遺産として残さなければとあらためて心に誓ったことと思う。

サミットを成功に導いた

サミットお助け隊は「**やればできるんだ**」という大きな自信から名を改め「連谷お助け隊」として継続、

地域の活性化、村おこしに若いエネルギーを注ぎ込んでいる。

今回の催しも、やや沈滞したムードに**《活》**を見出した素晴らしい企画であつたと思う。

村のために頑張る「連谷お助け隊」ほんとうにありがとう・・・(舞)



- やってよかったのん
- ありがとうさま ..うれしかった!
- 来年もやうまいかのん

豊かなむらづくり

農林漁業の振興を核とし、生活、文化等を含む幅広い地域活動を展開するむらづくりを対象に昭和五十四年から勤労感謝の日に農林水産祭の表彰行事の一部門として実施されております。

本年度の「豊かなむらづくり」全国表彰事業の優良事例として連谷校区が愛知県知事から推薦を受け、県代表として東海農政局長賞に選ばれました。

連谷校区は六月二十九日、学識経験者等から構成される「東海農政局むらづくり審査会」において書類審査および現地調査が行われます。

この審査の結果、東海農政局長賞及び農林水産大臣賞が決定します。

農林大臣賞決定地区は「農林水産祭中央審査会むらづくり分科会」において書類審査及び現地調査を行い、「平成十八年度農林水産祭中央審査委員会総会」において天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞が決定されます。

サミットを成功させた連谷校区のパワーを発揮しましょう。

みんなの奥三河

県農政課、市経済課、地元の耕作者(田吾作)が協力して「新体験交流ガイド」(三十三号で詳細掲載)が名古屋、岡崎、浜松など都市部から二十名の参加者で始まりました。

六月十七日は千枚田を通して自然の厳しさ、仕組み、恵みなどを地元の小山舜二(自然体験活動指導者)のガイドで観察しました。



田んぼの中にオタマジャクシや自然が豊かです。田んぼのドジョウがいました。田んぼのあそびが大好きです。

夜は「山びこの丘」に泊まりホタル狩りをする予定でしたが、あいにくの大降りで中止になってしまいました。

真っ暗な部屋でブツポウソウの鳴き声流れる中、ホタルが舞い交う荘厳な演出に参加者一同、市役所

の皆さんの心づくしに感謝感激・翌十八日は「田吾作」のおじさんたちの田んぼで田植え体験を行いました。

小さな段々田んぼで農作業が大変だなあと思いました。



田吾作の代表、今泉良治さんからお米のイロハ・ニホヘトを教わり、食の安全安心を改めて考えさせられました。

今回は十月十四・十五日、稲刈り体験と鳳来寺山自然科学博物館見学、年末には餅つき大会、ミニ門松作りを体験します。

NHKウイークエント中部で千枚田が紹介されました

六月十日、四谷の千枚田が紹介され大勢の人達が訪れています。真正

面から観た日本一の景観はもとより、石積みの中「野面積み」に興味を持った人達が多くみられます。

訪四谷千枚田

田中穂堂

耕田遠近插新秧
掠水縦横燕頰頰
段段寫雲千面鏡
山村風物趣偏長

〔読み方〕

四谷千枚田を訪う
耕田 遠近 新秧を挿す
水を掠め 縦横 燕 頰頰
段々 雲を写す 千面の鏡
山村の 風物 趣 偏に長し

豊川市 田中穂堂

ほたるぶくろ

連合の田端長紀さん(話題提供者)の土手に「ホタルブクロ」が沢山咲きました。一見、雑草を思わせる野



の花ですが、群生している姿は感銘します。

和名は、この花の中に子供がホタルを入れて遊んだことからか、提灯の昔の呼び名「火垂る袋」によるものといわれています。

モリアオガエルの産卵

千枚田の入口付近でモリアオガエルが産卵しました。



これは、毎年行われる春の千枚田観察会の時、呼吸まで飼育したモリアオガエルの子供を参加者の手で放した結果、四年目の昨年からの地で産卵するようになりました。

観察会の説明で、カエルは「その場へ帰るからカエルと言うんだよ」ということが実証されました。

ちなみに、「天王橋」から上方や「ふれあい広場」付近では天然産卵が多くみられます。

行 平成十八年六月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二